



誹諧觴八編全



5
1928
8



1928
8

嘉穀

俳諧觸八編

西田

叙

西田

觸をかむむ変や年く小

流行の風姿は八荒年

志んきき母とたり如未古人の

数平入家あり終ハ何いふ

名と鳴る。孤判老出。その
地の名。一。た。性。さ。ふ。と。由。む
み。お。う。へ。さ。無。さ。す。多。の。探。老
の。能。い。ま。い。い。小。粉。肯。と。何。い
と。原。ま。ら。一。軸。赤。流。ハ。是。流
ひ。さ。と。ぬ。士。の。ち。う。性。く。ま。か

み。せ。う。い。婦。一。半。流。若。も。い
根。の。長。く。も。今。ハ。編。み。若。い
う。き。若。さ。一。ぬ。き。せ。と。の
ま。な。如。暇。解。の。主。さ。か
か。と。ろ。う。ま。た。あ。か

寄居菴

多のーそのか
 君をとえり
 て白仙ま〜
 休るるか一あり
 所ま〜かろきり
 点あり
 旅伴 軍の学
 ぶ〜るまあり

五
 五
 五
 五
 五

神田菴

一休法師
 草叶かあり
 ありふこよお
 あり
 二教 志信
 師又 極お
 孝あり 妹伴
 せえとよんせ
 もえとと河三夕
 の〜とむつり
 意の白ありま
 つ〜て接あり
 あ〜るふを

糸か〜り水とわゆる舟とよ
 命買加もあきハ 雲糸
 うりく〜りのき〜り 旗田の信
 雲もき〜ん 研ハ〜と〜
 泊〜る〜い〜ひりき内
 為牛の表お〜り〜矢着の姉
 玉かこの跡跡もあ〜ゆゆ
 入梅の〜れりよあき〜の雲
 せふ〜ま〜は〜衣〜る〜ん
 せ〜〜〜〜〜〜〜〜
 乳陣よ母ハ病の床と出〜
 暖豆と〜への〜と仙の目
 然納侍〜〜の〜と
 ち〜り〜え〜の〜の
 長陣の〜と〜の〜の山

木村小知

眠くあ〜の〜平のま〜
 半はハ仙の天宮かま〜り
 妹入ま〜と〜又お〜り
 う〜ら〜神あり月のはちあり
 ち〜ち〜ら〜仙の〜
 山姫の〜〜〜長かあり
 かつも〜〜〜の〜
 長老ハ首飾り〜上〜
 止りや〜〜の〜
 水名あ〜ひ〜の〜
 妹伴子川〜〜
 細竹の〜子〜
 岸屋の口利〜
 枕灯〜て〜
 三人

流してハ
好のす

狐山巻

石寺観

一休のつら
又信を並り
あやふきふま
の作とア
とくく三句の
所と考へて
實を叙の句
又ハけぬ者
とのワ換が
是れとくあ
るもるん
わハまの
ゆ、や、

かかつらハ片ねいつもさるる
年さいれいれ任のさる
それとく又飾ひのさる
流ハ唐ハ馬ハかへさん
ま竹の風雪とさる
ハ橋ハあつるまも一
さるまは岩草のさる
と看もれんまは月る
是まは信とすの竹の
ま竹の中あけさる
勝ハ松のまはさる
あつる毛見つる
音もかくれは松の
吹合と笛とさる
網もさる

壽 秀国

獲はる上とさる
あつるまは松の
松を旅のうさる
まはるまは松の
あつるまは松の
余とまは松の
まはるまは松の
は松のまは松の
まはるまは松の
まはるまは松の
まはるまは松の

長あきく
まて下果しる
うはぬえ
長あり

近うつえとハありん丸
たもけぬ侍ハいつの午の刻
衣履の仲子出るる月
お登の衣さくららよいとまひ
泊文の帯てまは巨龍まき保て
未子のまきとやのこらぬる
意しととち曲るある肺抱
かひひまきしとこ縁とひく
毛を清き山代之首
後しと声まてくあるまを仙
ありとる松子巨連の寂しと
後る堂子一羽時ぬらめらる語
指の真えら子皆らてり
臣子ハ思せぬと姑おやめて
あまをまらて格つける業
勤してあるとはけり海や

西月菴

あつとく
まてあり
京地まあり
原うぬえら
今よ
金京の
新方むつ
貴又
金丸
字法
人志
寄り
まあれ

笠家雪堂

並衣の袖の務ひ涼
指ハまきさりの所は市板川
央白髪ふか
あまのハ知しきり多
夕露を呼ぶとわらるる
袖川といと新とすあひ
文とても肌の便のる露の陣
中ひらつとくと有る
新風まきいと写る片
く門とととぬまてえ
赤くともまきあひ百日紅
児とまき人々経を教へる
毛あけ鳥の門ちひさ
夕沙まきぬる

うのこころを
 のまはれ
 所方あれは
 言ふりか
 多ふゆゑ
 田松 又ハ
 東林の白
 一白宗の
 振か
 連宗の
 とき
 振か

雨夜菴

雨夜菴
 方一也
 白拍子
 夜く
 京
 吉原
 伊勢
 形舎
 寄
 山

赤柳の青柳
 香灯の精
 ひん
 かさ
 霜
 生
 雨
 小
 鬼
 遊
 着
 何

峽田菊堂

焚
 蚕
 少
 以
 う
 名
 帝
 名
 池
 何
 中
 主

中あき月巾
かまがけ
以射さくの白
換あ
三
おし
色まのり
色まのり

夜月菴

あき
く
とあ
お
換
娘
舟中
老行
笠
笠人
三
あ
三
三

研丸のあきのむら
点漏
一
あ
肌
業
ろ
学
為
う
ま
世

水野野水

あ
祭
一
下
告
玉
い
苦
あ
を
吊

十五

十六

句廿一あり

十八

何れかといふ人の医者の家と云り
 尺合棧者も空の音
 まりて指へる木戸と舟所
 かこもりて中々の病のまきまき
 平家の其の犬魚と云り
 警と切る僧者の多羽の母
 曆より日とくうか
 赤例とある餅梅の若
 大声て人をばあり濃村
 妹くけり積とかさめる
 夢と此岸のつく移つめ
 箱下の無も片のあつれ
 字一医あれともえとめさる
 併福ハソつと子たのせうじ
 ソんを同士の本性も性
 生も其の退いても思ひきり

十五

変 寛美

市告まきくまると居る
 陣少れの標さくくと吹上る
 第くついで標の長峰
 家樂管を内よのその松二平
 弄へかうハあんの松丸
 牛その柄子波とかき合せ
 五膳とくくきと隅へ片けて
 砂と捲り着てかけり
 左舟と春ハ尺へな麻の子
 け者ハ夜者よりの昇く
 麻を山まきも思慮とソメ母
 去ぬ火のつくのそしり
 用子葉のちほはせん
 尻名あつまるの川

光風園

諸国地名
 買色 尺教
 栴那 裏不
 温泉 牡丹
 水辺 忍花
 花丸
 まりてとて
 ひきもり
 とう舟の白
 信り
 句よかり
 声一とて

十五

十八

怪燈
そ外歌の句よ
よ初あり
連立の御方も
きくまよよりて
よ
一作人物より
作まらば吉原
の白徳あり

桂條亭

一作白作橋川
長のおおきく
かげんか一あり
さうく白中一あり
仕ま
龍口長の家味も
格也 生れ
山あり 神祇
そ外二進くと云
んをなげせま
系まの白より
意の白より
と作ら
をりよ
とるの

うくまて経宵のたぐきき
のききの雲く其のきき
すい強く
空する底を
このめいひ
毒業と
まらよ
砂川は
十二相
と翁の
老人と
そ小
浪危を
こけ
雷木と

谷口蓬雨

蚊の声のつら
やき及
まきと
麻起の
之と
財布
一人
明石
大門
ま
自判
味方

又今も一

跡跡亭

不器後も妙とけする様苗
彼ら海らふハ狐とありー
只らつむいそせすく母
のーうな金の際らさ熱るれ
老を中へ入る者の埋火
小所るり紙衣の縁を打たる
さくらりーと後つあくる
成運ませハ竹の長停勢の長
たろくーまらるめの方の長
傍中一つちるるるる
さるらるらるらるらるらる
むーらららららららららら
まららららららららららら
たやらららららららららら
然中らららららららららら

柏堂

一作去より作
まー一白中
よーうととき
ら
第一買ま
ふかあり
中らち又又ハ
おひ老あは振
か
ららららららら
あまららららら
うらららららら
点あり
泥坊市はま

河野美天

志つらさハ初のそのまくと
花咲くさよ連交あるあり
蝶々の唐いれえとけぬは
かたのさるの柳きりりり
向あうちりくまらと後み
秋中一のりさあ名はらら
地ろち下らるららららら
夏の奈らら法神とらら
初年屋の口まららららら
桃灯さるらららら
凡そ交勢負てりらららら
ららららららららららら
大玉やらららららららら
けらららららららららら

茶と柳うらふ小信居眠
 あれときけ短おあり杜宇
 雨杖の牛の尻まてころけ
 夫春も大原も女子たうとき
 家智もころてたを極楽
 高と尺の紙衣の羽衣と返一
 法とまらち二を八あはとを丸の尻
 えもん坂まきく見失く小虹
 北へとも帽のうらさき智の雲
 ろりけ麻のせう離つと
 長のおとせまよまきぬ妹くいと
 ころりと同春一玉素
 少力あふか事杖の少佐
 初徳の芭子府川の糸く結
 古用あうくおる元もくしき
 赤像よ夜をうけてそき抄條

○星運堂誹書目

東叡山下竹所

花屋久次郎

誹諧篇

江都宗匠高点句集
芙蓉散人雪成撰

全後編

同点式句ノ
委細ニ記

全續編

存義側ノ点式
句ノヲ記

全贅編

古人並退座ノ分
点式句ノヲ著

全三編

全四編

但存義
側ハ別
卷ニ記

全五編

全六編

全七編

全八編

全九編

宗匠四季発句
点式句ノヲ記

全十編

全十一編

全十二編

全十三編

四季發句帳

江戸橋宗匠発句
追加御句々入

全後編

全上

家雅見種 江戸松宗匠 宿所附 並列号

一枝筌 高点一座一卷宛 及故齋果然著

雪阿加梨 雪中菴一流宗匠 点譜並句ノ附合 発句等ヲ著

全後編 全上

雙後路談 其角座宗匠ノ 圖像並発句

吾妻童 金羅高点句集

双喜會儀 在轉催千句 批評高点句

野々錦 吉門高点句集

多嘉津句理 存義側高点 前句共

若眼鏡 聞道具ノ歌仙入 露十撰

薄暮丹 諸君ノ点譜並 句ノ名印ノ撰

全後編 全上 近刻

綾錦集 菊聖治涼撰古今宗匠系譜 並点印句ノ等発句

全後編 近刻

誹風柳樽 川柳万句合高点ノ書 初篇ヨリ廿一篇ニテ出版 毎年一卷宛出版

全末摘花 全人万句合末判ノ可笑ノ句ヲ 画入ニシテ著 全後編

百花香 吾山門人咀英撰 江戸百評高点句 初鴉 存義側高点 頭書附 風光撰

下毛 日光紀行 所名委記 宝馬著 万句抄 平砂宗匠万句十五点ヨリ五十点ニテ高判並極印点式入 曲双菴撰

遊覽志 山城近江地名古歌 並古人発句 羅扇字菖郭著 礎 當時流行点取ノ詞 五文字七文字ヲ記 一漁著

山東遊覽志 鎌倉金沢江島三浦箱根温泉元ノ地名 其所ノ寄古歌並古人ノ発句ヲ記 菖郭著

猿菴玖波集 素外撰 櫻合三三仙 存義一列 独吟集

近在所名集

武江近在限ラス東海道
鎌倉京近在流行所名入

全後編

鐘々ろり

提亭撰

花實集

秋色菴野菊撰

飾墨

存義側高点
並聞道具頭書著

六のちりら

自在菴祇徳
高点句集

高まゆめ

宝馬撰

鶴の脛

松壽翁一渙撰

百合花

提亭一万句高
点集

百枝寄

櫻川発句入
八十年賀

ぬさのこぞ

存義

日さかると

可因撰

かき野

可因

くらくら野

可因

遠筑波

存義
十三多仙

古来菴句集

存義
発句集

野樾

存義
萩句集

俳諧平河

不言高点
來道撰

秋の寐覺

秀國撰

尚齒舎

秀國撰

よ母れ花

一陽井評物
素外撰

百貫樋

素外高点
一万句

江戸四天王

初編コリ五編
毎年一卷完

柳晋問答

其角去来
誹論書

後子鳥

待充十五評
高点集近刻

花鳥合

宝馬独吟
十二歌仙

葵志月次発句集

買明發句集

寛美撰
近刻

句競秀撰

白達磨見風 兩評高魚句
多ッ菴秋丸

伊賀餞別

常列小川住左右所持
芭蕉翁真蹟

近刻

續二鳥賦

多ッ菴中

近刻

甲子吟行

芭蕉翁在冬とある

波聲撰

ゆゑ木枕春

柳居傳系并勺集

秋風撰

御詠彫摺物處

花屋

之次序

沙海げのりり物と近詠句種も止る御有
難きよお、者ふ此なる人ば長生口け
は下と盡しゆりすもた、移人を入る御有
御有、仕且口詠、御有、御有、御有、御有
さよ下口けり物、御有、御有、御有、御有
御有、御有、御有、御有、御有、御有

